

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系・准教授

氏 名 大島 崇行

研究期間 平成30年度

研究プロジェクトの名称	学び続ける力の育成を目指した授業観察・協働省察プログラムの開発と評価
研究プロジェクトの概要	<p>当該研究は、学び続ける力を備えた教師の育成を目指した教職大学院における授業観察・協働省察の教育課程開発とその評価を議論するものである。本研究では、教職大学院の特色である前期のプロフェッショナル科目の講義と学校支援フィールドワーク、そして個人研究の時期という個々に独立した科目や時間を有機的に結び付け、年間を通して自身の授業観察を省察する教育課程を設計・試行した。</p>
研究 成 果 の 概 要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>年間を3期に分けた。授業観察と省察には、大島ら（2017）が開発したedulogによる授業観察記録のデータを活用した。edulogは画像を含めた授業観察のデータを一覧化する機能を有し、他者との観察視点比較の支援、記録を蓄積し、各回観察のリフレクションシート、各期のリフレクションシートをクリアファイルに綴じ、ポートフォリオ化することにより個人内、他者比較の支援として活用した。</p> <p>I. 1期：講義期（4月～7月）</p> <p>教職大学院のプロフェッショナル科目において、附属小社会科2回、附属中社会科2回の授業を観察し、それぞれ参観後に協働省察を行った。</p> <p>II. 2期：学校支援フィールドワーク期（9月～12月）</p> <p>各自のフィールドワーク先でのプロジェクト課題解決への取り組み、授業観察や授業実践経験を通し、学校観・授業観・子ども観を養い、教育技術の習得を目指した。</p> <p>III. 3期：自主研究期（2月）</p> <p>1～2期での経験を元に附属中社会科の授業観察・協働省察をした。自身の観察の変容を省察することを通しメタ的な省察力の向上を目指した。</p> <p>以上の年間を通したカリキュラムにより、省察を通した学び続ける教師の養成を目指した。</p> <p>年間を通したカリキュラムを組み、それを総括的に振り返ることで、学生たちは授業内容だけでなく自身の観察の枠組にも着目し分析していた。そして、これらの取り組みを通し自身の成長を感じとることができた。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 本研究の基礎となる研究として、協働授業観察研修における初任者と初任者指導教諭の省察、日本教師教育学会第28回研究大会、2018.9.；総括リフレクションを取り入れた授業観察実習プログラムの開発と評価～教育実習生による授業観察の事例を通して～、科学教育研究、43(2)、日本科学教育学会、2019.（印刷中）を発表。 本研究成果は2019年9月日本社会科教育学会全国大会にて発表予定。
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>学校支援プロジェクトにて、学習者がどのように学んでいるかを大学院生が観察するためのツールとしてedulogを活用し、学校現場の先生方と大学院生リフレクションすることで、観察したことをフィードバックする。資料を重ね長期的な観察をすることで、現場の先生も学生も相互に成長できるプロジェクトにしていく。</p>

